

生活単元学習指導案

日 時 平成26年9月25日(木)5校時
 場 所 家庭科室
 児 童
 指導者

1 単元名 やまゆりクッキング 「ジャガイモ団子を作ろう」

2 単元について

(1) 児童について

自閉症・情緒障がい学級には1年生男子1人、2年生男子1人と、4年生男子2人と、6年生男子1人が在籍している。知的障がい学級には3年生女子1人と6年生女子1人が在籍している。

両学級の児童は、ほかの児童とコミュニケーションがうまくとれずトラブルもよくあるが、学級での生活に慣れてきてそれぞれがやまゆり学級に所属感をもちながら生活している。

やまゆりクッキングの学習では、どの児童も意欲的に取り組んできている。しかし、学習内容よりも流し台やほかの用具に関心が向いたり、自分の分担より友達の分担に興味・関心を示したりして集中して学習に取り組めないことがある。また、手を洗うことをいやがるなどの衛生面への関心が低い。材料や用具の名前はだいたい覚えているが、用具を正しく使うことができない児童がいる。

これまでのやまゆりクッキングの個々の児童の実態は以下の通りである。

		調理に関心がある。	衛生・安全面に関心がある	コミュニケーションがとれる。	調理の技能がある。	感想を発表できる。
知的	A(3年女子)	○	○	○	○	△
	B(6年女子)	○	△	△	○	△
自・情	C(2年男子)	△	△	△	○	○
	D(4年男子)	○	○	○	○	○
	E(4年男子)	○	△	△	△	◎
	F(6年男子)	○	○	◎	◎	○

(よくできる◎、できる○、もう少し△)

自閉症・情緒障がい学級に見られる「相手の気持ちを理解できない」や「教師の意図をくんで話せない」などの特徴は知的障がい学級でも見られる。また、知的障がい学級の児童と自閉症・情緒障がい学級の児童がコミュニケーションを取り合う場面も見られる。従って、それぞれの学級でするよりも、知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級の合同学習として、やまゆりクッキングに取り組むことは、コミュニケーション能力の向上や協力して作業することで成就感や達成感を得られると考え、合同で行っている。また、合同で取り組む際には2人の6年生には事前に練習をさせ、リーダーとして自信をつけさせるようにしている。

(2) 題材について

児童の実態から、生活単元学習の調理活動では、将来の自立をめざし、児童に様々な活動

を体験させることをねらいとしている。具体的には、畑で作物を育て収穫し、調理して、販売する活動に取り組む中で、力を合わせて一緒に活動することの楽しさや良さを感じながら、自らの力で活動し、生活を楽しむ経験を増やしていこうと考えている。

本単元は10月の誕生会を計画し、おやつ作りとして調理活動を行う。ジャガイモ団子は自分たちが植え、育ててきたジャガイモを使うことにより、意欲的に活動できると考えている。

ジャガイモ団子を作るには、芋を洗う、芋の皮をむく、はかりを使って重さを量る、切る、ゆでる、つぶす、小麦粉の重さを量る、生地を丸めるなど、たくさんの道具を用いながら自分の手を使って様々な作業を行わなければならない。難しい作業のところは得意な児童が行ったり、教師に手伝ってもらいながら行う。また、個々がジャガイモ団子作りに関わり、6人で協力して作り上げる。これらの活動を通して、お互いのコミュニケーションを円滑にし、自分のできることを増やし、それぞれの生活経験を豊かにすることにつながっていくことをねらう。

そして、これらの体験をすることが、児童が成就感をもち、自信をもって生活していくことにつながると考える。

(3) 指導について

やまゆりクッキングでは1学期にクレープやピーマン味噌、ジャム、デザートを作った。クレープは校内の職員が試食を行い、好評を得た。ジャムやピーマン味噌は、職員に販売することを経験してきた。その際に、「おいしかったよ。」などの感想の言葉をもらうことで自分たちの活動に成就感をもつことができた。本単元の指導にあたっては、次のことに留意して指導を進めていきたい。

- 活動の内容や手順を文字や写真で表し、内容が具体的に理解できるようにする。
- 活動の際は分担を決め、作業の進行具合を確認しながら活動に取り組めるようにする。
- 単元全体の学習を通して、振り返りを行い、できたことを認めたり、最後まで意欲が続くように支援したり励ましたりしていきたい。

3 単元の目標

- 調理の仕方がわかり、見通しをもって活動に取り組もうとする。
- 自分の役割を理解し、手順に従って活動できる。
- お互いの作業を確認しながら活動することができる。

4 単元の個人目標

児童	個人の目標
A (3年女子) 知的	・友達と一緒に活動することができる。 ・はかりの目盛りの読み方に慣れる。
B (6年女子) 知的	・自分の分担を確認しながら活動することができる。 ・はかりの目盛りの読み方に慣れる。
C (2年男子) 自・情	・友達と一緒に活動することができる。
D (4年男子) 自・情	・友達や教師に聞きながら自分で活動することができる。
E (4年男子) 自・情	・内容を理解し、友達や教師に聞きながら自分で活動することができる。
F (6年男子) 自・情	・見通しを持ち、必要に応じてた友達の活動を 手伝いながら活動に取り組むことができる。

5 指導計画（6時間扱い）

時	ねらい	学習活動	評価
1	○ジャガイモ団子を使ってお誕生会をしようという意欲をもつことができる。	○お誕生会の計画を示し、準備の分担や進め方を決め、見通しをもつ。	○お誕生会の内容や進め方、準備の見通しをもつことができる。
2	○ジャガイモ団子を自分で作って食べたいという意欲をもつことができる。 ○調理に必要な食材や量、調理器具の名称、役割を知ることができる。 ○調理の手順を知ることができる。 (ジャガイモは収穫済み)	○本単元の学習計画を示し、単元の見通しをもつ。 ○食材の名称や量、調理器具の名称及び役割を実物（または写真）と対応させる。 ○クッキングレシピを使って確認する。	○学習内容の見通しをもち、自分でジャガイモ団子を作るという見通しをもつ。 ○食材や調理器具の名称及び役割を理解できる。 ○調理手順が理解できる。
3 ・ 4 (本 時)	○手順に従って、ジャガイモ団子を作ることができる。 ○自分の分担を理解し、作業の進み具合を確認しながら活動できる。 ○協力し合い、最後まで根気強く取り組むことができる。 (作ったジャガイモ団子は冷凍保存)	○ジャガイモ団子の生地を作る。 ○ジャガイモを洗って、切って、ゆでて、つぶす。小麦粉と水を量りとり、つぶしたジャガイモと混ぜてこねる。(2時) ○生地をまるめて団子を作り、ゆでる。(4時、本時)	○クッキングレシピをもとにジャガイモ団子を作り、食べて感じたこと、調理しての感想などを表現し、発表することができる。
5	○計画に沿って、お誕生会の準備の分担がわかり取り組むことができる。	○計画に沿って、飾り付けを作製し、進行の練習をする。	○計画に沿って、お誕生会の準備ができる。
6	○計画に沿って、お誕生会を実施することができる。	○計画に沿ってお誕生会を実施し、ジャガイモ団子を加工して食べる。	○お誕生会の中で、ジャガイモ団子を加工して食べ、感想などを発表することができる。

6 本時の目標

(1) 全体の目標

- 手順に従ってジャガイモ団子を作る。
- 自分の分担を理解し、お互いの作業を確認しながら活動する。
- 協力し合い、自分の分担に最後まで根気強く取り組む。

(2) 個別の目標

児童	本時の目標
A (3年女子) 知的	・クッキングレシピ縮小版を見たりして活動に取り組むことができる。 ・約10gを量りとることができる。
B (6年女子)	・クッキングレシピ縮小版を見て確認したりしながら活動に取り組むことがで

知的	きる。 ・約10gを量りとることができる。
C(2年男子) 自・情	・自分の分担を理解し、友達と一緒に活動することができる。
D(4年男子) 自・情	・手順を確かめながら、自分の分担を理解し、友達と一緒に活動することができる。
E(4年男子) 自・情	・自分の分担を理解し、友達と一緒に活動することができる。
F(6年男子) 自・情	・クッキングレシピを見ながら活動に取り組むことができる。 ・友達の分担を確認し、必要に応じて手伝いながら活動に取り組むことができる。

(3) 授業改善の視点

①学習意欲の向上(意欲をもたせる工夫)

- ・本時の学習意欲を持たせるため、見通しをもつことができるクッキングレシピを提示する。また、クッキングレシピ縮小版をもたせることによって、個別に見通しをもつことができるようにする。

②言語活動の充実(コミュニケーション)

- ・振り返りの場面、自分の気持ちを発表できるような話形カードや表情カードを活用して発表させる。

(4) 本時の展開

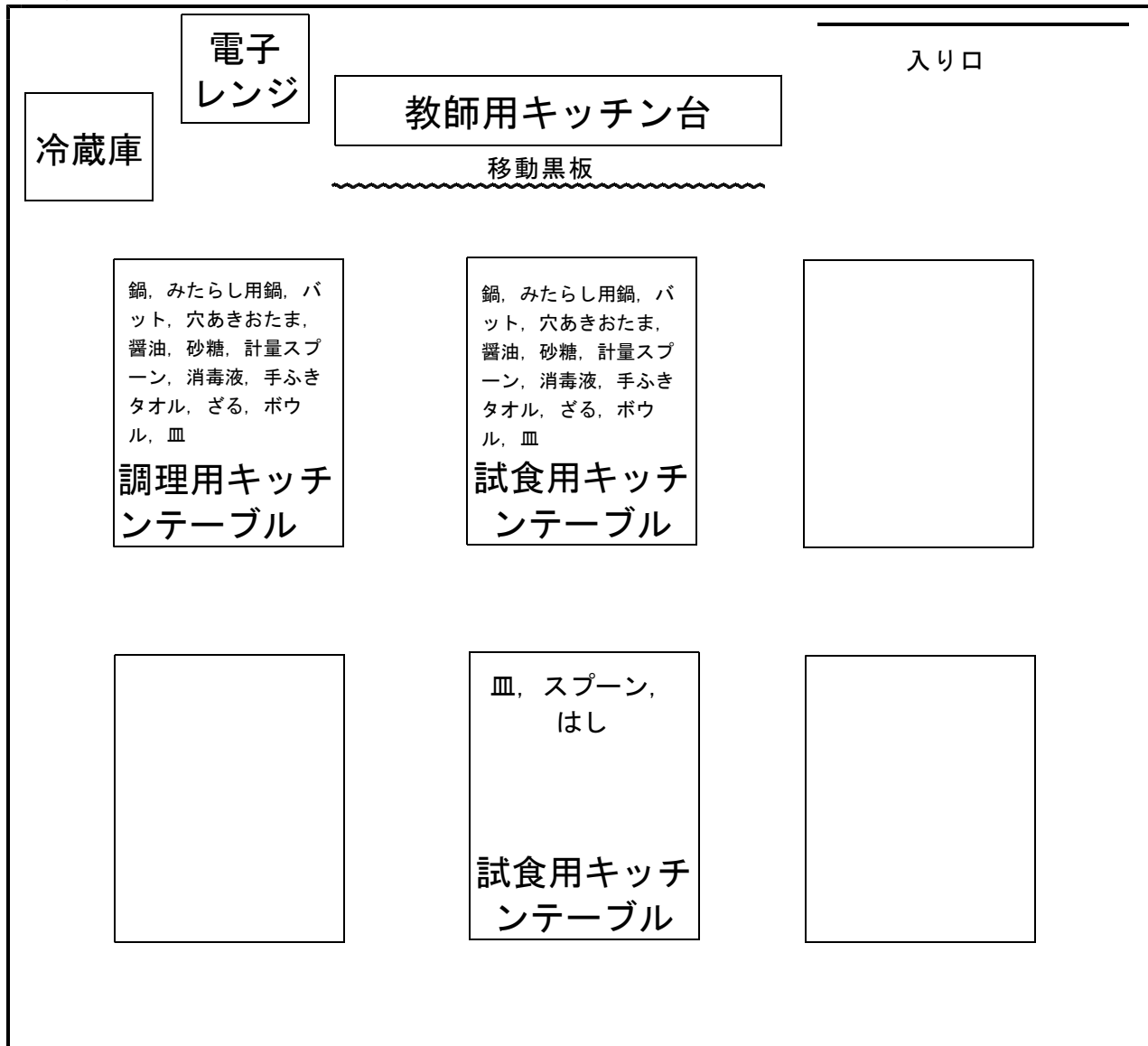
学習活動(時間)	指導・支援・授業改善の視点の評価	留意点[準備物]
1 はじめのあいさつをする (1分)	・全員が着席するのを待って、日直に声をかける。(T1) ・着席していない児童を着席するように促す。(T2)	・身支度を済ませてくる。
2 前時の学習の振り返りをする。 (2分)	・前時までのクッキングレシピを提示し(T2)、これまで学習してきたことを確認することで、本時の活動がわかるようにする。(T2) ・話を聞いていない児童に注意を促す。(T2)	
3 課題を確かめる。 (2分) ジャガイモ団子を作ろう	・課題を提示する。(T2)	・移動黒板を児童用テーブルの近くに置き、課題とクッキングレシピを提示する。
4 本時のクッキングレシピを提示して、調理器具を確認し、流れを知る (5分)	・本時のクッキングレシピを提示する。(T2) ・調理器具と本時の流れを確認する。(T1)	
5 クッキング (26分) (1)手を洗う。 (2)消毒をする。	・いすを試食用テーブルに運ぶ ・手洗い、消毒をT1、T2が演示する。	・[ハンドソープ、手ふきタオル、消毒剤](T1、T2) ・[分担表]

<p>(3) 分担を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが分担を確認する。(鍋係、レンジ係、みたらし醤油係、みたらし砂糖係、みたらし水係) ・確認が進まないときは分担表を見せる。(T 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキングレシピ縮小版を各班に渡す。[醤油、砂糖、水、計量スプーン、耐熱容器、電子レンジ、なべ×2]
<p>(4) ジャガイモ団子を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みたらし醤油係、みたらし砂糖係、みたらし水係は自分の分担を量り取る。 ・レンジ係はみたらしの材料をレンジに入れ温める。(T 1) ・鍋係は鍋に水を入れて火にかける。(T 2) ・生地を3人で分け、まるめて約10gの団子を作り、なべに入れる。 ・レンジ係はボウルに水を入れておく。(T 1) ・鍋係はざるとバットと穴あきおたまを用意する。(T 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水が沸騰したら火を止めさせる。 ・[はかり] ・火が消えているときは、点火する。[鍋、ざる、ボウル、穴あきおたま]
<p>(5) ジャガイモ団子をゆでる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団子が浮いてきたら、穴あきおたまでとり、水の入ったボウルに入れる。(T 1、T 2) ・ボウルに入っているジャガイモ団子をざるに移す。(T 1、T 2) ・ざるで水を切ったジャガイモ団子をバットに並べる。(T 1、T 2) ・ゆであがった団子を各自2個皿に取り、みたらしをかける。 ・取り分けたら、試食用調理台に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使い終わった用具はその都度片付けさせる。(T 1、T 2) ・自分の作った団子でなくても浮いてきた団子からすくわせる。 ・団子を入れる、すくう活動は順番に体験させる。 ・[爪楊枝、バット]
<p>6 試食 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の準備を確認してリーダーが「いただきます。」をする。 ・全員が食べ終わったらリーダーが「ごちそうさまでした。」をする。 ・残ったジャガイモ団子が入ったバットにリーダーがラップをかけて冷凍庫に入れる。(T 1) 	<ul style="list-style-type: none"> [皿、爪楊枝、スプーン] ・リーダーは、残った団子をラップして冷凍庫に入れる。 ・冷凍庫に入らない場一時的に冷蔵庫に入れる。 ・身支度はそのままです試食する。
<p>7 振り返り (3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、感想を交流する。(T 1) ・感想を発表できたことを評価する。(T 1) 	
<p>8 あいさつ (1分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の評価をする。(T 2) ・全員が着席するのを待って、日直に声をかける。 	

(4) 評価の観点

- 手順に従ってジャガイモ団子を作ることができたか。
- 自分の分担を理解し、お互いの作業を確認しながら活動することができたか。
- 協力し合い、最後まで根気強く取り組むことができたか。

6 家庭科室の使い方



7 やまゆりクッキング指導計画 (別紙参照)